

# 社会福祉法人 平成30年4月号 葦の家福祉会だより

## どんなに重い障がいがあっても地域で普通の生活を

昨年は日本列島全体が極寒と猛暑に見舞われましたが、その余韻なのか3月から4月にかけて梅と桜の花がほぼ同時に開花する珍しい現象が起きました。急激な気温の変動で体調を崩された方も多かったのではないかと思います。

さて、当法人は、今年度、三人の新しい仲間をお迎えすることができました。お二人がえる油山に、お一人が新たに葦の家の利用者となられました。それぞれの式典は4月7日（土）に開催されました。数日前までは夏を思わせる気温の日が続いていましたが、当日はうって変わってみぞれまじりの荒れ模様の天候となりました。式典に来賓としてご列席いただいた学校の先生方、地域の皆様、当日は足元の悪い中、多数ご参集下さり有難うございました。

毎年のことではありますが、正装して少し緊張気味の仲間と保護者の方々を前にして、当法人の代表者として身の引き締まる思いがしました。いかにして利用者の方々に満足いただける支援を提供することができるか大きな課題を前にして責任の重さを痛感する次第です。

今、政権をめぐる様々な問題で国会が混乱しています。福祉の世界も例外ではありません。国家予算に占める福祉関連予算も、果たして十分な額を確保できるのか気がかりです。今まで通りのやり方が通用しない時代が到来しているようで不安です。しかしながら、どのような時代になろうとも変わらぬこと、決して変えてはならぬことがあります。「どんなに重い障がいがあっても地域で普通の生活を」という当法人理念がそれです。

当法人はこの理念のもと昨年度グループホームを立ち上げましたが、現在、様々な問題点に直面しています。その原因の一つに求人問題があります。これは日本の産業界全体が抱える頭の痛い問題でもあります。しかし、高い志を持った人材がどこにでもいることもまた事実です。当法人の中にもそのような人材がいることを誇りに思います。しっかりと将来をみつめ、あらゆる知恵を総動員して、どんな時代が訪れようと前に進んで行きたいと思えます。

新しく葦の家の利用者となられた方々と仲間たちの生活がこれから始まりますが、みんなで力を合わせ明るい笑い声に包まれた法人運営に努めて参りたいと思えます。どうぞよろしくをお願いします。

社会福祉法人葦の家福祉会  
理事長 福山 良弘



# 平成 30 年度葦の家福祉事業計画



## I. 事業方針

1. 利用者ニーズに応え、市、国の地域移行、包括ケアに対応するため地域生活支援事業の立て直しを図る。(3年計画)
2. 現管理職分担による事業継続、遂行、世代継承を図る。
3. 地域の中核法人として事業の維持、継続、推進を図りうる標準的な経営、事業推進体制作りに取り組む。(3年計画)
4. 人事・育成・採用計画による人材マネジメントの体制整備に取り組む。(3年計画)  
職員各人が職責に応じた仕事をふつうに行なえることをめざす。
5. 中期計画を見直し、行なえる事業に絞り込むとともに、現場課題、ニーズ、ポテンシャルのあるメニュー事業に取り組む。

## II. 重点目標

1. グループホームの人員体制を充足させ、ヘルパーステーション、ショートステイ部門の支援体制を再整備する。
2. 本部・事務局・事業推進体制を整備し、管理職、リーダー層で分担し、世代継承を図る。
3. 各事業ともに財務、人事、監査、リスク管理を確実にしない、ガバナンスを強化する。  
IT, PCの保守管理体制を整備する。
4. 採用計画により、職員の確保、定着に取り組む。
5. キャリアパスによる人事考課体制の整備、実務を確実にしない、人事計画を策定する。
6. 研修年次計画により職層単位の研修に取り組む。
7. 職員の処遇、労働環境の整備に努める。
8. アート・アトリ工構想の具体化、新たな地域、街作りへの関与、農業の推進に取り組む。
9. 法人設立 20 周年を記念し、役職員学習懇親会を開催する。



## 各事業の事業方針・重点項目



### ○法人本部

1. 法人事業の多角的な進展、遂行を確実に図り、法人内の迅速な決裁、情報の共有、連携を促進するために、本部事務局機能を強化し、規程、法令に準拠した確実、効率的な事務遂行を行なう。
2. 理事会、理事長のもと本部機能を本部長による法人事業推進、事務局長による本部事務局のラインで編成し、管理職も含めた分担体制をとる。

### ○葦の家（生活介護）

1. 地域に広がって行くグループホーム利用者がそこで生活できるように、日中働く環境（通所事業所の利用）を提供し、福祉の街づくりに寄与できる体制づくりをめざすことにより家族支援を強化する。

2. 多様なニーズに応じた働く環境づくりと仕事の創生を行なう。

#### ○える油山（生活介護・就労継続支援 B 型）

1. 農地拡大について、借り上げ候補地を探し、農作物の作付を行なうことによる工賃アップをめざす。
2. 地域行事へ積極的に参加し、地域の方々と顔見知りになる関係を深化させる。
3. 個別支援計画とアセスメント、モニタリングの書き方、ケースカンファレンスの仕方、及びケース検討を具体的に行なう。
4. 人材育成をめざした業務面談の効果的実施のためのタイムマネジメントを行なう。
5. スーパーバイザー(サビ管、支援部員、施設長)による OJT 及びスーパービジョンの実施。
6. 自己確立とメンタルヘルスケアのための研修を衛生委員会等に於いて実施する。
7. B O S (ビジネスオペレーティングスキル) と H S S (ヒューマンサポートスキル) をバランスよく身につけるための内外研修を実施する。
8. 財務安定のための節約と倹約を行なう。
9. 事業所マニュアルのデータ化により、紙媒体を一部廃止する。



#### ○ヘルパーステーションほっとほっと

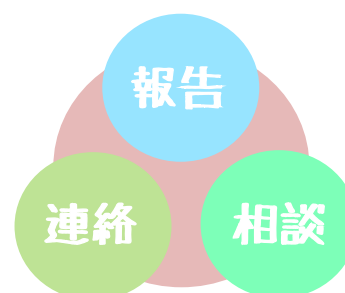
新体制によるラインとチームワークを確立し、運営の安定化を図る。体制整備を半年間の期間を目途に行ない、4~6月、7~9月各四半期単位で目標を掲げ、検証し取り組む。

1. 異動者、新任者への確実な引継ぎを行ない、プログラムを組み確実な研修を行なう。
2. 事故防止等リスクマネジメントを図る。
3. 法人内事業所との連携を図り、統合的なシフト調整体制を整える。
4. 年度内も含む人材確保を図るための求人、就業条件の整備を図る。
5. 組織化と人材育成に取り組む。(3年計画)
6. 事務、庶務、労務管理等を確実にこなす。
7. スタッフ間のチームワーク形成と意思疎通、懇親を大切にする。
8. 財務の安定を図る。
9. 社会資源の開拓、運動を行なう。



#### ○ショートステイ（短期入所・日中一時支援）

1. 確実なシフト調整体制を維持する。
2. 安全管理に留意したスタッフ体制（数、力量）に応じたサービス提供を行なう。
3. 組織、ラインを明確化し、確実なハウレンソウ体制を築く。
4. 事務、庶務、労務管理等を確実にこなす。
5. 年度内も含む人材確保を図る。
6. スタッフ間のチームワーク形成と意思疎通、懇親を大切にする。
7. 財務の安定を図る。
8. 松原事業所、葦の家のサービス提供体制を見直す。



### ○グループホームすてっぷ・すまいるホーム

1. すてっぷの体験を再始動することと満床に向けた準備を行なう。
2. すまいるホームの確実な運営（支援面・運営面）を行なう。
3. 重度障がい者等包括支援事業との連携を行なう。
4. 人材確保と定着が図れるよう、OJT 機能を強化する。



### ○重度障がい者等包括支援事業 りーど

1. 主にグループホームに居住し、行動障がいのある最重度障がい者がふつうの地域生活を営むことができるよう、状態像に応じたサービスの調整を行なう。
2. 利用者の月単位の支給量の調整をニーズに応じて行ない、毎月開催されるサービス調整会議で事業所間の情報共有、連携を図る。
3. 確実な事務、実績管理を行なう。
4. 重度包括支援の意義を関係者に発信し、全国の他事業所と情報交換等を行なう。

### ○相談支援事業（城南区障がい者基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

1. 業務の効率化、組織化を図り、効果的なケースワーク、運営体制作りを行なう。
2. 市基幹相談支援センターと連携し、市、国の施策に対する確実な対応を行なう。（基幹相談）
3. 職員のOJT体制作りと労働環境の保全に取り組む。
4. 確実なケースワーク力と各障がいに対する対応力を向上させる。
5. 障がいのサービス等利用計画作成体制を軌道に乗せる。（あしっぷ）

### ○福岡市屋形原・若久特別支援学校放課後等支援事業

1. 安心・安全なルーム環境づくりを行なう。
2. 保護者会とも連携し、家族支援を行なう。
3. 学校・行政・放課後等デイサービス・他福祉サービス事業所との連携を行なう。



## 事業所開設・人事異動等のお知らせ

○相談支援センターあしっぷ（指定特定相談支援）が開所しました。

城南区樋井川 4-1-11（りーど内） ☎092(400)0800 ✉aship-soudan@athena.ocn.ne.jp

○平成 10 年の通所施設立ち上げ時から法人運営に携わり、ヘルパーステーションほっとほっと、および短期入所の管理者であった豊村佳代子が昨年度末をもって退職いたしました。

○各事業所主要人事（サービス管理責任者・サービス提供責任者以上の就任）

【葦の家】サービス管理責任者：是永匠吾 【えーる油山】サービス管理責任者：岡村亜紀

【ヘルパーステーションほっとほっと】管理者：友廣道雄 サービス提供責任者：上片野亮

【短期入所葦の家りーど・相談支援センターあしっぷ】管理者：友廣道雄

【重度障がい者等包括支援事業りーど】管理者：藤環

【すてっぷ（すまいるホーム）】サービス管理責任者：長野隆之 【法人本部】事務局長：末次恵一

○新任職員（平成 30 年 4 月付）

【葦の家】林鉄郎、山川澄貞、加祥めぐみ、松岡礼華、岩倉舞 【えーる油山】藤吉順平

こんにちは！

# すまいるホームです。



昨年の7月、樋井川3丁目に地域型のグループホーム第1号「すまいるホーム」が開所し9カ月が経ちました。「すてっぷ」で共同生活の練習をしてきたおかげで、仲間たちにも大きな混乱はなく、比較的スムーズにスタートが切れたように思います。ご家族や職員が想像していたより、仲間たちは新しいくらしの場で自分なりのペースで生活しているようです。



福岡市でも初の「重度障がい者等包括支援事業」を活用したグループホームである「すてっぷ」「すまいるホーム」は重度の障がいがある仲間たちが親亡き後も地域で暮らせる可能性を示せたホームだと思います。しかし既存の制度を最大限利用しても、最重度の障がいや行動障がいがある仲間たちが安心・安全に暮らせる体制を作るにはまだまだ多くの困難があります。

通所施設とは異なり、24時間365日を支える生活支援では、通常のホーム内での支援以外にも通院や外出などにも個別に対応する必要があります。特に突発的な病気で通所できなかったり、通院す



る必要が出てきたりする場合や、インフルエンザ等の感染症が発生した場合、法人内の各事業所に急な応援を要請するなど、ホーム単独では対応できないケースもあります。

また、休みの日の余暇支援も大きな課題です。一部、ホームヘルプ活用で外出できている仲間もいますが、多くの仲間は休みの日に暇を持て余しているのが実情です。時々近くの公園へ出かけたり、買い物に出かけたりしていますが、ボランティアさんの協力等がないとちょっとした外出でもままなりません。

今年度より重度の障がいがある方のホーム利用も前提とした報酬費改定があったものの、実際には様々な制約があり、逆に運営が難しくなっています。

このようにまだまだ課題の多いホーム運営ですが、最近では地域の方に声をかけて頂けることも多くなり、地域の中での生活にも幅が出てきました。地域の方から催し物に呼んでもらえたり、逆に地域貢献活動として公園清掃などに取り組んだりするなど、仲間たちも地域の一員として頑張っています。また、このホームには葦の家後援会の活動場所も兼ねた地域交流室を設けています。今後、このスペースを活用して地域の方々と触れ合えるような企画を考えていきたいと思っています。これからも、より仲間たちの「地域の中でふつうのくらし」が充実できることをめざしていきます。



# ～ 平成 29 年度の行事を振り返って ～

## わはは祭り 2017

昨年 7 月に葦の家福祉会 2 つ目のグループホームとなる「すまいるホーム」が開所したこともあり、元々わはは祭りの意味にも含まれる「笑い・笑顔」といったことにも絡め、祭りのサブテーマを『地域でつくる みんなの笑顔(すまいる)』と致しました。葦の家がある樋井川には高齢、児童、地域おこし、といった様々な福祉関係者も多いことから、そういった方々も巻き込んで、一法人の祭りではなく、地域の祭りとなるよう、地域の皆様にも声掛けしながら準備を進めてきました。昨年に引き続き「つつみカフェ」に出張開店をして頂くとともに、新規に「長尾病院」「上長尾テラス」といった地域関係者の方々に祭りに関わって頂く事ができました。今回も城南区「ふれあい城南フェスティバル」、福岡市の「ユニバーサル都市・福岡」の関連イベントとしても位置付けられ、行政とも連携した形で開催することができました。



堤地区を中心とした地域の方々や市内の高校、大学、専門学校、個人のボランティアさんなど、多くの方々にステージ出演や模擬店出店、各種企画などをお手伝いいただき、前日の設営準備も含めると、総勢 370 名（前日：76 名・当日：294 名）と昨年（319 名）を大幅に上回る方々にボランティアとして参加して頂きました。また、葦の家・えーる油山の仲間たちのご家族にも前日・当日ともに多数のお手伝いを頂きました。仲間たちもステージでの発表、作品展示、販売などそれぞれに準備に取り組んできました。

当日は天候にも恵まれ、約 1,100 名（推定）の方々にご来場頂き、仲間たちやスタッフ、ボランティアも合わせると、当日役 1,600 名の方々がこの会場に集い、盛会のうちに祭りを終えることができました。



## バスハイク

昨年度のバスハイクは「えーる油山」はどんぐり村、「葦の家」はマリンワールドにバスハイクに行きました。どんぐり村では好天に恵まれ、おいしい空気をいっぱい吸いながらきれいな青空を眺めたり、ソフトクリームを食べたり、楽しい1日を過ごしました。マリンワールドではあいにくの天候でしたが、様々な海の生き物を見たり、触れたり、ダイナミックなイルカショーを見たりしました。



## 成人を祝う会

1月にはえーる油山で3名の仲間が成人を迎えました。会場は堤公民館をお借りし、出身校の校長先生や地域の方、仲間たち、職員に囲まれて、あたたかい会を行なうことができました！ また、パティスリーコイデさんからお祝いとしてケーキをいただきました。ありがとうございました。



## ふれあいバザー

2月に葦の家後援会主催のふれあいバザーが葦の家駐車場・運動場で開催されました。仲間たちのご家族や、大学のボランティアサークルの皆さんにお手伝いいただき、「葦の家」「えーる油山」もそれぞれにバザー出店させて頂きました！

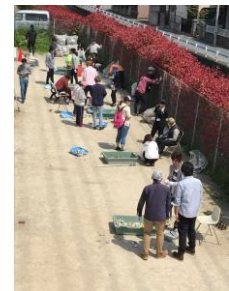


## そ・の・ほ・か

そのほかにも地域の夏祭り、運動会、清掃活動などにも積極的に参加しました。

また、毎月の地域アルミ缶回収作業をはじめ、様々な活動で多くのボランティアさんにお手伝いいただきました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

(\*^-^\*)



# 平成 29 年度 葦の家福祉会 実践発表会

## ～ 利用者(なかま)の生活づくりと地域福祉づくり ～

葦の家福祉会では平成 24 年度より法人内の各事業所からその年の実践研究内容を発表し、支援員の資質向上、法人内での事業所相互理解、外部への情報発信の機会としています。今までは各事業所からピックアップされた事例（ケース）について発表が行なわれていましたが、今回は法人内の複数の事業所が連携支援している一人の仲間の事例を中心に発表が行なわれました。

葦の家福祉会の理念である「地域の中でふつうの暮らし」が実現できることを目指し、副題も「利用者（なかま）の生活づくりと地域福祉づくり」として、事業所間のみでなく、医療・福祉・地域が連携することの大切さについて発表が行なわれました。

第 2 部では地域・医療・福祉分野から 4 名のシンポジストをお招きし、地域で実際に取り組まれている活動を紹介しながら、お互いにどのような連携・協力が図れるのか、地域でどのようなことができるのかなどについて議論されました。

当法人でもこの地域でどのようなことができるのかをあらためて考えさせられる発表会となりました。



## 日々の情報を発信しています！

～ 葦の家福祉会フェイスブック・あしのいえブログ～



葦の家福祉会では各事業所での支援の様子などをフェイスブックで発信しています。ぜひご覧ください。

また、ホームページでは各事業所の概要をはじめ、過去のたよりや刊行物、事業報告、求人用サイトなど、さまざまな情報を掲載しています。



フェイスブック



ホームページ

### 社会福祉法人 葦の家福祉会だより 平成 30 年 4 月号

発行日 平成 30 年 4 月 25 日  
編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会  
〒814-0153 福岡市城南区樋井川 4 丁目 1 - 1 7  
〈代表〉 Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362  
E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp  
URL <http://www.ashi.sakura.ne.jp>